

くろわ 曲輪Ⅱ西側土塁



くろわ 曲輪Ⅱ北側虎口



おびくろわ たてぼり ほりきり 帯曲輪(竪堀と堀切の接続部)



きただて 北館平成13年度調査区



きす 江戸時代初期に築かれた石垣



代表的な
しゅつど いぶつ
出土遺物



ないし どなべ
内耳土鍋

せとみの
瀬戸美濃産
とうきまるざら
陶器丸皿

用語解説

おびくろわ
帯曲輪：大きな曲輪の外側にある幅のせまい細長い曲輪。斜面の防御や通路に用いられました。

からぼり
空堀：水が入っていない堀。水が入るものは水堀といいます。

くろわ
曲輪：城を構成する区画で、人工的に平らにされた場所。

こぐち
虎口：城や曲輪の出入口。

こしぐろわ
腰曲輪：斜面に設けられた小規模な曲輪。斜面の防御に用いられました。

じょうかん
城館：中世から近世にかけての防御施設を備えた領主居館や山城、城郭などの総称。

じわり
地割：土地をある基準で区割りすること。

たてぼり
竪堀：斜面と同じ方向（等高線に直交）に上から下に向かって設けられた空堀。

どるい
土塁：土を土手状に高く積み上げた防御施設。

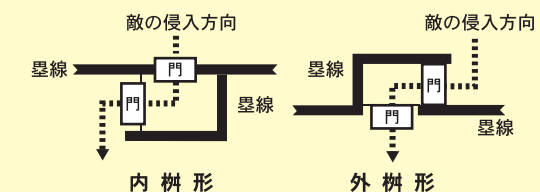
ないしどなべ
内耳土鍋：内側に耳の形に似た把手が付いた土製の鍋。鉄製の鍋を模倣したもので、東北地方では伊達氏の領国から出土する例が多い遺物です。

はじょう
破城：城を壊して使えなくすること。「城割り」ともいいます。

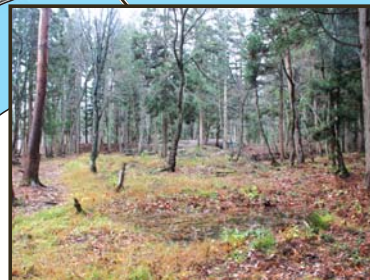
ふしん
普請：城づくりのための土木工事のこと。建物をつくることは「作事」と呼ばれますが、場合によっては城郭関係工事全般を指します。

ほりきり
堀切：屋根や台地を切断するように設けられた空堀。

ますがた
櫓形：虎口に設けられた方形の防御施設。通路をまげて敵の直線的な侵入を防ぎます。内櫓形と外櫓形の2種類あり、石垣が普請された曲輪Ⅰ西側の櫓形は、内櫓形に分類されます。



ようがい
要害：地形が険しく、守るのに有利な場所。山城を示すこともあります。

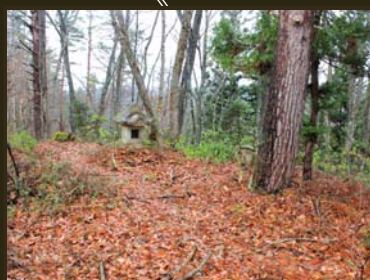


庭園状？遺構

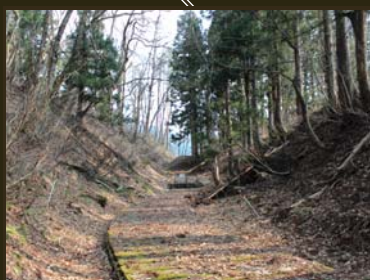
くろわ 曲輪Ⅰ南側虎口



くろわ 曲輪Ⅲ



ものみだい 物見台



くろわ 曲輪Ⅱ・Ⅲ間堀切



くろわ 曲輪Ⅰ西側櫓形虎口

国指定史跡 館山城跡全体図

ひがしだて やまじろ
東館から山城を望む▶

